

和歌山県建築士会 女性委員会 会員数19名 1994年設立

～ただならぬ普通を発見！～

昨今の経済情勢や環境保護という思想・観点から、既存建物を有効に活用する手法であるリノベーション、リフォームが注目されています。その手法や観点を学び深めるべく、

京都大学大学院工学研究科准教授 神吉紀世子氏による講演『歴史的環境を住空間として再評価する』を開催し、まちなみ研究の活動を通して発見された文化的景観について聞くことができました。

一般に守っていくべき景観と言われるのは、歴史があり集合して残っているというイメージを持っていましたが、古い・新しいは関係がなく個性的であることに面白さがあるといえます。

しかし、地元ではいたって普通の光景として存在するまちなみ。

それを神吉先生は“ただならぬ普通”と表現されています。

そんな“ただならぬ普通”を私達も発見していこうと見学会への参加や女性委員会による開催を行いました。

今後は見学会に加え、勉強会や一般の方も交えたワークショップ等を開催していく予定です。



神吉 紀世子氏による講演会の様子

ただならぬ普通 その壱 ～和歌山県 湯浅町のまちなみ～

湯浅町は漁業と醤油醸造で全国的に知られ、醤油発祥の地として古くから栄えた町です。

その中でも北町、濱町、字中町、宇鍛冶町周辺は湯浅伝統的建造物群保存地区として指定され、江戸時代に繁栄した醤油醸造元が現在でも数軒営業を続け、歴史的景観の面影を今に伝えています。

このまちなみ保存の為、空き屋となっていた伝統的な町屋を修理し、ギャラリーとして再利用するなど文化財としての保存とまちづくりへの活用を図っています。

(近畿建築祭和歌山大会 エキスカーション)



ただならぬ普通 その弐 ～和歌山県 伊都郡かつらぎ町 初桜酒造 母屋・囲い蔵・仕込蔵～



囲い蔵

「ほんまもの地酒」を造ろうと、地元の伏流水と避寒地・天野の里の米を使い「手作りのお酒の良さ」を目指している「初桜酒造」さん。酒造業の起源は明和二年(1765)、昭和十五年から笠勝家が継承し現在に至っているそうです。母屋・囲い蔵・仕込蔵は2006年「国登録有形文化財」に指定された酒蔵です。

酒蔵南に位置し、大和街道沿いに建つ母屋。こちらも国登録文化財です。軒先には、三輪大神社より戴いた杉玉が吊るされ(今年もお酒を造っていますというし) その昔、3000人ものお名行列がこの前を通ったそうで、「馬つなぎ」が残されています。



母屋

その母屋で、古酒から始まり色々なお酒の試飲をさせて頂き、最後に干し柿のお茶うけで美味しいお茶を御馳走になりました。今も86歳になるお母様が住まわられていて、大切にされている様子が伺え心温まる気持ちです。建築に携わるものとしては、消耗品のような建物が多く造られる現在において、住み継がれていく家のあり方をもう一度考えていかなければと思える一日でした。

